理事長講演

高年初産婦に対する産後ケアのガイドライン

千葉大学大学院看護学研究科
リプロダクティブヘルス看護学領域
森　恵美

わが国は晩産化傾向にあり、第 1 子出産年齢は平均 30.4 歳（2013 年）である。2013 年の高年初産婦（35 歳以上の初産婦）の全出産者に占める割合は9､5%と 12 年前の 3.3%と比べて急増している。高年初産婦は、流早産、低出生体重児、胎児の先天異常などについてハイリスクであるが、産後経過に母子ともに異常がなければ、他の年代の母親と同様の産後入院日数であり、同じクリニカルパスでケアが提供されていることが多い。そのような背景から、高年初産婦に特化した産後ケアをする指針が急務であると考え、私は平成 22～25 年度内閣府先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）を受け、「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」研究プロジェクトを行った。国内外の文献検討及び私たちの【研究１】高年初産婦の産後の身体的心理社会的健康状態に関する研究、【研究２】産後６か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート研究の結果から、高年初産婦における産後の健康問題を確定した。本ガイドラインのためのクリニカルクエスチョン（CQ）を策定した。CQ ごとにシステマティックレビュー（SR）を行い、私たちのコホート研究成果も含めてエビデンスを抽出した。公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する医療情報サービス事業(Minds；Medical Information Network Distribution Service)の「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集（暫定版、2013 年）」に基づいて検討し、合議のもとに推奨文を作成し、外部評価、パブリックコメントを受けて、お陰様で 2014 年 3 月に最終版を完成した。

そこで、本理事長講演では、このガイドラインの開発過程、その内容をご紹介することで、本学会員、次世代研究者の研究プロジェクトの参考にしていただきたいと考えている。